

群馬県におけるトリカブト属植物の分布と現状

大森威宏*

1987年に発行された群馬県植物誌改訂版では、8種1亜種2雑種（現在の見解に修正）のキンポウゲ科トリカブト *Aconitum* 属が記録されている。また、Kadota(1987)に引用された群馬県産のトリカブト属（レイジンソウ亜属2種を除く）は7種3亜種である。その後新たな発見や分類群の見直しの結果、2017年現在群馬県から記録された分類群として記載されたトリカブト属は植物12種4亜種3雑種である。

群馬県から記録のあるレイジンソウ亜属は全県の山地帯に分布するアズマレイジンソウと北部の亜高山帯に分布するオオレイジンソウである。トリカブト亜属のうち2倍体種は多野山地に分布し、吾妻郡西部からも記録があるサンヨウブシと谷川連峰から尾瀬・日光連山に分布するジョウシュウトリカブトである。群馬県のトリカブト亜属4倍体種は8種4亜種である。カワチブシは太平洋型気候の山地に分布し、川場村を北限とする。センウズモドキは上毛三山と吾妻郡に分布し、カワチブシよりも乾燥した山地に分布する。稀産種のオンタケブシは吾妻郡の1地点、ウゼントリカブトは利根郡多雪地の1地点に分布し、それぞれの種の分布北限と南限である。*A. japonicum*に属するヤマトリカブトは多野山地と赤城山、榛名山、子持山、ツクバトリカブトは浅間山周辺の山地帯と渡良瀬川沿いの丘陵帯（及び川場村）、オクトリカブトは利根郡の多雪地に分布する。亜高山性の *A. nipponicum*に属するキタザワブシは日光連山、ミョウコウトリカブトは至仏山から武尊山・丹後山に分布する。同じく亜高山性の *A. zigzag*に属するナンタイブシは赤城山から袈裟丸山を経て日光連山、ハクバブシは武尊山から谷川連峰を経て野反湖に分布する。このように種内に亜種が分化している場合、分布は側所的である。このほか、ホソバトリカブトは日光連山に分布する。このほか上野村からはサンチュウトリカブトと仮称される未記載とみられる分類群が知られている。これらの間の種間雑種は記載されているフジレイジンソウ、イヌハコネトリカブト、ミョウギトリカブトを含めて12分類群にのぼった。

群馬県のトリカブトのうち、オンタケブシは環境省の絶滅危惧ⅠA類に指定されている。群馬県でも10株未満が1地点に分布するだけで、さらに竹林の進出や遷移進行により、寸刻の猶予もない状況である。ウゼントリカブトも1地点しか生育地がなく、県レベルでは絶滅危惧種に該当する。毒性の低いレイジンソウ類やジョウシュウトリカブトのほか、日光連山のキタザワブシやホソバトリカブト、川場村のカワチブシやツクバトリカブト、上野村のサンチュウトリカブト（仮称）はシカの摂食によって矮小化し、開花株数が減少している。特にキタザワブシやサンチュウトリカブト（仮称）は絶滅危惧種であると考えられる。一方、多雪地のオクトリカブトやウゼントリカブト、多野山地のサンヨウブシはシカの摂食回避によって増加傾向にあり、2000年代に入って林床に広く純群落を形成するようになっている。

キーワード： 群馬県、キンポウゲ科トリカブト属、多様性、交雑、絶滅危惧種、シカ

（*群馬県立自然史博物館）